

クローバー通信

女性医師へのメッセージ

呼吸器・アレルギー内科 福田 健

私が講座を主宰するようになった平成8年以来、64名の研修医・大学院生、レジデントが入局してくれました。そのうち22名(34.4%)が女性医師です。女性医師の多くが結婚し、出産、子育てをしました。退局して出産、子育てした方もいますが、多くの女性医師は出産、育児休暇後は勤務に復帰し、病棟副医長を務めた方もいます。同時に複数の女性医師が休暇に入っていたこともありましたが、特に病棟・外来体制に支障はなく、同僚医師の仕事量が多少は増えたものの、過大な負担がかかり医局内で問題になってこともありませんでした。講座として特別なシステムを組んでいるわけではありません。私と医局長は、妊娠された女性医師が、大学が定めた出産、育児休暇を同僚に気兼ねすることなく取れるように人事面で配慮しているだけです。また、医局員は男女、上下関係なく、自分もいつかは同僚の助けを必要とするときもあると互助の精神で当たり前のように協力してくれています。このように自然体であるにもかかわらず上手く回っている一番の原因は、医師数が多いため、もし医師数が不足していれば、こんなに上手くは回らないと思います。厚生労働省は将来必要な医師数を算定しますが、その算定の基準となるものが現在の患者数と医師数です。過重労働勤務医が多い、女性医師が安心して出産・育児し職場復帰することが難しい現在の医師数を基準にしたのでは、将来も同じ状態になってしまいます。将来必要な医師数算定に当たっては、是非、そのことを考慮して欲しいと思います。

クローバーの交流会に参加して

第一外科・小児外科 山口岳史

今回は妻が発表するというので、第3回の交流会に参加させていただきました。女医さんばかりで居づらいいかな、と思っていたのですが、私の他に2人男性がおり、いくらかホッとしました。勿論、女性医師の子育てに関する諸問題は女医さん本人だけのものではありませんので、男性だからと気後れすることは間違いなのでしょう。

会の方は、今回は皮膚科の嶋岡先生と小児科に入局した妻の発表がありました。自分も登場するスライドにソワソワしましたが無事終わり、その後は茶話会がありました。私達はこれまであまり先輩方のモデルを参考にできる環境にいなかったもので、他の皆さんの話が聞けて非常に有意義でした。きっとこれから出産を予定している方々にも役に立つと思います。女性医師が増えているのであれば、子育て環境の整備は医師確保に直結します。私も初めて参加しておいて言える立場ではありませんが、もっと沢山のひとと情報を共有できると良いですね。今後の女性医師支援センターの更なる発展を願っています。



講演会のお知らせ

開催日時：11月10日(土) 14:30~16:30(受付14:00~)

会場：関湊記念ホール(入場無料)

基調講演：津田 喬子先生(名古屋市立東部医療センター名誉院長、日本女医会会長)
「キャリア継続の道しるべ」

特別講演：藤巻 高光先生(埼玉医科大学医学部脳神経外科教授)

「女性医師とともにいきる 一夫として、同僚として、上司として」

※ 託児サービス有/事前に予約が必要となりますので下記までご連絡ください。(月~金 9:30~15:30)